

長崎北病院 伝言板 4月号

令和6年4月1日発行

4月。桜咲く。早咲きの桜は透き通る浅緑の若葉。ソメイヨシノは今が見頃。咲き誇る。遅咲きの八重桜が続きます。一本の桜木でも蕾が膨らみ、ピンクに色づき、一輪二輪3分、5分、8分。そして満開。散りゆく桜もまたよし。この時期、一気に注目を集める桜。人は花を愛でる。しかしこの一瞬の輝き以外の時間は、葉を広げ、養分を蓄え、葉を落とし翌春の花芽を作る。人知れず続く営み。



桜 咲 く

今年も新しい人が加わってくれます。当院入社43名（法人全体で66名）。職種、年齢、出身など多種多様。多くの人にとって初めての仕事、新しい職場です。緊張しない訳がない。昨日までは学生。今日からはプロとなります。私たちの新人時代（大昔）は、国家試験発表前から実戦投入（いわゆる無免許です）され、見よう見まねで震えながら始めました。当時の患者さんにはご迷惑をおかけしました。それに比べると昨今は「新人研修」「新人教育」「教育担当」など恵まれてはいます。それでも学生時代とプロとしての職場とは違います。少しずつ独り立ちしていく過程でストレスや悩みは出てきます。壁や逃げたくなることもある。個人差もあります。何でも素早くできて要領が良く見える「早咲き」タイプ。自分ではできない、遅れていると悩む「遅咲き」タイプ。どちらも発展途上。できたつものの早咲きタイプは飲み込みは早いですが、抜けがあたりミスにつながる可能性があります。自分ではできないと悩む遅咲きタイプは遅いけれど自分の欠点がわかる人です。



一つ一つ乗り越えればきちんとした仕事ができる。どちらのタイプも先輩や教育係の後をついて回って、見習いながら日々続けていけばいつの間にか一人前になっている。失敗するのも落ち込むのも、立ち直りが早いのも若者、新人の特権。患者さん、ご家族には、未だ蕾の新人が咲き揃うまで、若葉マークが独り立ちするまで、しばしのご辛抱ご容赦をお願いいたします。この数年間、コロナの波に翻弄されてきました。「三密を避ける」「黙食」「距離をとる」「握手しない」などなど。コミュニケーションが取りにくい時代。話す時の声もマスクの下でモソモソと小声。全てに萎縮し静寂(silent)。以前から、当院は、患者さんやご家族から「職員の皆さんが廊下やすれ違うときにもしっかり挨拶してもらって嬉しい」と言われることが多く、自慢でした。目を見てしっかり大きな声で挨拶されると、誰でも嬉しい。返事を返したくなります。にこやかな挨拶をされると相手は「この人は悪い人ではない」「安心できる人」とわかります。挨拶一つで距離が縮まります。初めての人とのコミュニケーションも挨拶でスムーズに入れます。挨拶は魔法の言葉です。ところがコロナの影響でしょうか 最近挨拶の声が小さく張りがないように思えます。下を向いて小声でボソボソという感じですか。せっかくの挨拶が勿体無い。基本は①自分から積極的に ②立ち止まるか歩を緩めて目を見て ③大きな声ではっきりと ④笑顔か普通の顔で。仏頂面は怒っている! 機嫌悪い!と思われる。などでしょうか。病院では皆さんマスクをしています。大きくはっきり発音しても感染はしません。マスクをしているからこそ意識してはっきり発音する必要があります。新人の方は慣れないかも知れませんが元気を出して。先輩のスタッフは手本となるようにしっかりと。「たかが挨拶、されど挨拶」。挨拶は仕事のためや、言われるからするのではない。プロとしての自分の仕事の入口、自分のためにするのです。(A.S.)

